



シイタケ栽培に精を出す吉田さん夫婦

順調に伸びるシイタケ栽培

中戸の吉田勝治さん（45）と菊枝さん（42）は、水稻とシイタケを栽培する専業農家です。原木1万本の確保から菌入れ、もぎ採り、出荷までほとんど2人で作業しています。吉田さんは林業構造改善事業で鉄骨ハウスを建ててから好成績を上げられるようになったと話していました。町のシイタケ栽培戸数は、やや減少傾向にあるものの、出荷数量、販売高は順調な伸びを見せております。シイタケは、地域農業振興の目玉商品としてまた、健康食品として各方面から注目を浴びています。



シイタケ集出荷販売施設

どう生きるのか八郷の農業

「どう生きるのか、八郷の農業」と題して、町代表、JAやさと代表、生産者そして消費者の方々に集まつていただき、座談会が開かれました。兼業化、高齢化、担い手不足など農業事情が深刻化していく中、町と農協の広報担当者が知恵を出し合つた結果の企画です。

話し合わされた内容をそれぞれの紙上で同時に取り上げ、「八郷農業」の現状と将来についての見通しをさぐることにしました。

現状は、後継者不足、諸開発の影響、農村社会の変ぼうなど問題が山積しています。しかし、懸命に努力している方々のおかげで、産直や商品のブランド化など将来にむけ、明るい見通しもできました。

司会 最初に町長と組合長から町の基幹産業は農業であるという位置づけの中、二十一世紀にむけてどういう考えを持っているかをお伺いしたいのですが。

町長 これからは、農業によつて自立できる農家の育成が課題であります。具体的には、観光農業の推進や販売に伴うマーケットイングの強化、地域農産物の加工など、付加価値のある農業転換ということが大事であると思つております。観光農業面では、フラワーパークという観光の拠点ができました。そこへ年間四十数万人の方がきて

いただいております。農業と観光を結びつけた第二次農業ともいふべきこともこれから大いに力を入れていきたいと考えております。

また、いまは北海道でも九州でも遠距離から飛行機によつて運ばれましてその日のうちに生鮮食料品で入つてきてしまう時代です。

しかしながら、コスト的な問題になりますと当町のようになつりますに、東京より七十キロ圏内の位置にあるといふことは、同じものを作つてもコスト的に戦うことができ、消費者との信頼関係も築けます。

フライト農業ということが叫ば

れていてもこの地理的条件を生か

せば必ず道は開けるものと信じます。従いまして今後は生鮮野菜などに力を注いでいかなければならぬと考えております。町にはナシをはじめとする果樹類も数多く、農業振興に不可欠なものとなるでしょう。

畜産におきましても県内ではい

然違うように。

もう一つは農村社会に対して貢献せよということ。農業の衰退と合わせて農村自体がおかしくなっている。農協が農業振興と同時に、農村社会全体に保証するというのが出ています。行政と同じように福祉や高齢化の問題についても、地域に貢献をしていかなければ、という方向づけがされたわけです。

いま農村社会がどのような状態にあるかを知らなければどんな計画を立てても机上の空論です。



桜井町長

農業政策を進めていくことが地域生鮮野菜と合わせて觀光と結びつけた政策を進めていくことが地域振興に不可欠なものとなるで

低農薬栽培に取り組む

組合長 全国的な統一見解とし

て地域農業の振興をうたっているんです。今まで日本全体一律の農業政策をやつて増産しろ、コスト低減をしろ、効率化を上げろなんていうことばかり前面に出ていた。

地域農業の振興とは、八郷は八郷としての農業のやり方があるだ

ろうと、それによって地域の振興せよという訳なんです。北海道や九州それぞれの地域においては当

調査の中で農業振興が必要であるという項目が五番目くらいに下

がつてしまつた。上位には福祉とか教育とか。全国的な流れかなという感じがします。農協としては、兼業の多い、労力のない中での農業をどのように形作っていくかが、今後取り組むべき課題なんです。

いま産直（産地直結取り引き）という事業をとり入れています。

松崎 新しい食糧農業 農村生

活における基本的視点と方向、いわゆる新政策が、農水省から出さ

ま粗生産等がトップクラスを占めているわけであり、力を入れていかなければならない大事な産物であります。

「私は農業をやめます」という方が二〇パーセント。約七〇パーセントはいるという答え。あとは子供が小さいから分か

らないとか。「私は農業をやめます」という方が二〇パーセント。

私の代で終りです。県全体でも十十五町歩。もしそういう方向になつた時、産直で光を見出した後継者がいるのかという問いには、小さな規模の農家はどんなふうになるのか。有機農法は、肥料にして農薬にしてもある面で労働力が必要なんです。

そのため大きな機械や省力化の施設というのが必要になつてきます。設備投資というとやはり行政の力、農協の力を借りなければならぬかないかなと。

岩瀬 農業をはじめてまだ五年。その前は一企業のサラリーマンで、それできました。消費者との交流の中では、消費者の意向も分かつてくる。農村の苦労も分かつてもらつる。最初に松崎さんとお話しをいたいと思います。



萩原 専務

あとは、最近耕作していない畑がものすごく多くなつてきている

れました。その中

で、十年後の日本の農業は小さい農業を全部切り捨て

るという方向が打ち出されました。

そこで産直がどん

んなふうに生き残

れるか。特に新政

策では米の場合だと

一町歩未満が主

要作業をほとんど

委託。そして専業でやるのに

十十五町歩。もしそういう方向になつた時、産直で光を見出した

後継者があるのかと

いうところが、現実を見せるのも大事な

ことです。農水省の全国の調査でも

その程度です。県北は比較的多い

一六パーセントと出ています。

岩瀬 農業をはじめてまだ五年。その前は一企業のサラリーマンで、それできました。消費者との交流の中では、消費者の意向も分かつてくる。農村の苦労も分かつてもらつる。最初に松崎さんとお話しをいたいと思います。

司会 次に生産者と消費者の方

にそれぞれ意見をいただきたい

と思います。最初に松崎さん。

農業座談会出席者

(順不同)

鈴木 勝支	(菖蒲沢・養豚農家)
松崎 英男	(弓弦・野菜栽培農家)
岩瀬 直孝	(東山崎・ナシ栽培農家)
萩原 久	(小幡・主婦)
木崎 真	(八郷町農業協同組合長)
谷島 幹雄	(同組合業務部長)
桜井 聰夫	(八郷町長)
鈴木 修照	(同町農政課長)
川俣 忠	(同町農政課長)



んです。その土地を意欲ある人に貸していただければいいと思うんです。そのシステムがうまくで

きて有効に活用できないものかと。

鈴木 養豚をやっています。養

豚は公害だからすぐにもやめてく

ださいという人が、かなりいると

思います。だから農業をやりたい

というよりやめようというほうが

先にたっているのが現状です。

農協にお願いしたいのは、農家

を増やすよりも十年先を見越して

組合員を確保するのが先決だと思

います。うちの地区では私より年

下で専業農家は一人しかいない。

あと全部勤めです。そういう中で

農業をやっている。加えて農薬を

使うとだめ、肥料を持っていくと

だめ、消毒はだめ、といわれると

どうしてもやめるほかなくなつて

しまつんです。畜産の場合には特に

そういう状況にたたされています。

次の世代にバトンタッチを



木崎 組合長

助役 テレビでは、十年か二十

富田 この町にきて十五年くら
い立つんですが、野菜づくりの大
変さを感じたんです。十一月
頃まで四月から五月頃になつて

仕事とは、我々が振興してきた農
業を発展的に、次の世代にバトン
タッチのできるような体制をつく
つておくことも大切な仕事です。

また、消費者が農業をどうとら
えているかを知る必要がある。生
産者のことでも消費者の方に知つて
もらおう。低農薬栽培の岩瀬さんの
ような方が拠点拠点に残つていて
それが十年後に大きな輪になる。
そういう期待をしております。

富田 そうですね。

組合長 学校で農作物を作ったた
らしいんです。そして子供たちに

年たつと「どうか農業をやつてくる
ださい」と国が頼むようになると
いつていきましたがね。

組合長 ヨーロッパでは農業に
社会的な地位をきちんと位置づけ
ている。日本は昔の土農工商では
ないが、立場はいいんだけれども
評価がね。社会全体を教育してい
かないだめだと思うんです。

富田 農業の評価は低いですね。
生産者が取れたまま売ればこ
の値段だけれど、きちんとすぐ食

やつと食べられることがはじめて
分かりました。だから消費者教育
というか、消費者の方にもただ生
鮮物だけのことじゃなくてそれ以
前のことから知つていただくこと
が大切だと思うんです。

農業に関して苦情がある場合で
も、消費者が安全でおいしいもの
を欲しいということであれば、見
返りとしてこういうことがあると
いうことをきちんと教える。片方
の苦情ばかり受け入れてゐるでは
だめだと思う。お互い納得すべくで
いい方向にむかつていけばいいん
じやないかなと。

組合長 どうすれば後継者が定
着するのかという大きなテーマな
どですが、収益が上れば後継者が
いるという人がいる。金なんかい

ます。六人くらい。専業ですよ。
それぞれの部門の中では生き残り
をかけて頑張つてゐる方がいるん
です。

助役 若い人でそういう方がふ
えてくれば、町の農業も展望がひ
らけてくると思います。

専務 二十一世紀にむけてする

くら上がつても暇がなければイヤ
だという人もいる。農業で
サラリーマンの何倍という所得を
上げている人が大勢いるんですよ
八郷ね。農業も経営者としての
手腕が問われる時代になつてきま
した。

組合長 シイタケだけで一千万
以上収入を上げている人がいるん
ですよ。六人くらい。専業ですよ。
それぞれの部門の中では生き残り
をかけて頑張つてゐる方がいるん
です。

助役 若い人でそういう方がふ
えてくれば、町の農業も展望がひ
らけてくると思います。

専務 二十一世紀にむけてする



鈴木 勝支さん

べられる状態にしたときは、これ
だけ上乗せします。くらいのこと
やつてもいいかなと思うんです。

業務部長 今、農協でも産直を
推進中で、生産者と消費者の交流
をしています。

去年ですが、生協の実験田を約
一反歩つくり、田植えから草取り、
収穫まで全部東京の組合員が行
たんですが、七月のかなり暑い日
に草取りにきたんです。農家の人に
だつてイヤになるほどの暑さでし
た。「こんな思いするんだつたら、
除草剤でも何でも使つてくれ」。

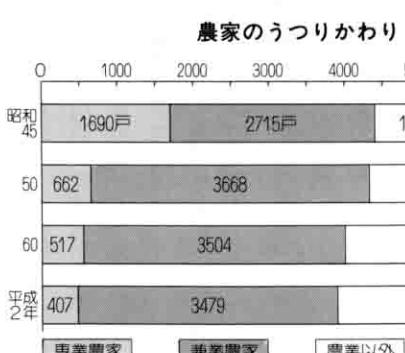
やはり言つてること自分たち
が求めていることに矛盾があるん
です。農薬の使わない野菜がほし
いと言つてしながら、それは形が
ないだめだと思つてくれ」。

岩瀬 農業だけやつていたんで
はだめなんですね。団体活動な
り、いろいろな方面へ出て、優良
農家の人たちと付き合うとか。

ぼくが会社をやめて農業につく
きっかけは、そういう方を身近に
感じたこともあつたんです。

司会 消費者教育、これは富田
さんからあつたんですね。

富田 農業の評価は低いですね。
生産者が取れたまま売ればこ
の値段だけれど、きちんとすぐ食



悪い、お店に並んでいるのから見れば見劣りすると。やはり交流している中で理解してもらうのが一番だと思う。

松崎 数年前に比べると農業は格段に生産力が上がっている。野菜にしても収量も、所得も上がっている。総収入は上がっているのにどこかで吸収されてしまうんですね。

そこで産直という発想が出てきました。消費者と直接取り引きすることによって自分で値段を付けられる。半分くらいまで。お互い合意しながら農薬を使い、話し合いながら作っていく。



富田 恵子さん

富田 農産物を農協で取り扱う量はどのくらいですか。

専務 農畜産合せ、だいたい五十一億二千九百万円です。その中で産直は、十億超えるくらい。

業務部長 米は、直接じゃないんです。生協が八郷の米という指定をして経済連を通します。今の食管法ではそれしかない。八郷の米ということで産地指定して売る。

農地を整備したり、自然を守つたりするには、どれだけコストがかかるかというのも含めて知つてもららう。そういう中で農業をお互い理解していくことうといふわけです。

農地の跡地を生協が使い、大増小学校の跡地を作りました。八郷の自然を知つていただくという計画が検討されています。ハイキング、サイクリングをする。たとえば植物なり、昆虫なり、また八郷の歴史的・人物なり、いろいろ人の話を聞きながら理解してもらいます。



谷島 業務部長

専務 できるだけ消費者と付き合つことが消費者教育になると考えて、共同の構構想というプロジェクトチームを作りました。

農協の仕事とは、農家が作った原料を供給するだけでなく、加工していく必要もあるでしょう。自分たちでどこまで加工をして消費

に目を開いていかないと。

鈴木 神奈川のスーパーが産直の関係でやはりこちらにくると、ハエがいっぱいいるんでピックリするんです。

組合長 農村のいい所も見て、お互いにがまんすることも大切。お豆を一晩水に浸しますとものすごい泡ができます。輸入したものは

ほとんど泡ではない。豆が生きているんだろうと。やはりそれだけ神経を使えば消費者も理解してくれます。



町の補助を受けて、葉たばこ生産組合が設置したたばこ乾燥施設は、本州で2番目。もっとも手間のかかる作業が省力化され、規模拡大が可能に。

れる。町にも協力いただいて共同の村をどのくらい活発に活動できるか。それはやはり八郷の農業にとって一つのポイントかも知れません。

町長 できるだけハエを少なくして、町としては、何とか頑張ってくださいと。養豚は、県内一なんですから、力をいれてくださいよ。地域の人たちもう一度八郷の農業を見直して、農業をやろうという人には協力体制を持つてもらいたいのです。今、豚舎もあらう程度お金をかけちゃうでしょう。

移転といつても大変なんですよ。

組合長 農村のいい所も見て、お互いにがまんすることも大切。お豆を一晩水に浸しますとものすごい泡ができます。輸入したものはほとんど泡ではない。豆が生きて

ぬ。だけど無農薬でやっているから殺せないと、冗談混じりで言つたそうですが、消費者はきれいなところで思つているようです。

生産者と消費者が交流

ぬ。だけど無農薬でやっているから殺せないと、冗談混じりで言つたそうですが、消費者はきれいなところで思つているようです。

町長 できるだけハエを少なくして、町としては、何とか頑張ってくださいと。養豚は、県内一なんですから、力をいれてくださいよ。地域の人たちもう一度八郷の農業を見直して、農業をやろうという人には協力体制を持つてもらいたいのです。今、豚舎もあらう程度お金をかけちゃうでしょう。

移転といつても大変なんですよ。

農政課長 行政では、まず公害担当のところに話しがあります。われわれは振興する側ですが、公害担当課とタイアップしながら対処しなければなりません。振興する立場からは、畜産をやつて方にはできるだけ対処していただ

く。たとえば、臭いとかハエとかを防止するために長年、防臭剤とか殺虫剤とかに補助とか助成を行つています。その他にも公害対策のいろいろ補助事業があります。

専務 町の農業は非常にバランスが七億、シイタケが四億、畜産が

酪農、豚、ブロイラー合わせて、十五億から十八億。それが有機農業ということにつながりました。

県では、畜産と果樹が中核になった農村像を、町に對して描いています。県が描いたからそのとおりにいくというんじなく、それが我々と合致すれば、そうして、それが我々と合致すれば、そのよろしくお願いします。

助役 農地を借りるなりして、

規模を大きくする人もあるだろうが、それだけでは、解決できません。結局、集約あるいは施設園芸という方面を伸ばさなければ、普通の土地を使う農業だけでは伸びられないのです。

八郷はすばらしい農業地帯

確かに農協そのものの対応の遅れもあります。公害となるものも、還元すれば立派な肥料になる。それが、有機農業の基本なわけです。

将来的には田と畑を合わせて数千町歩の土地あるわけですから、今の畜産の糞尿がこの土地で消化できないはずはないんです。

農政課長 今の話は環境整備の話で、肥料として活用する形で一つの植え込みをつくり、有性肥料として利用されたりもしています。

富田 JAやさとだよりは、地元の現実を知つてもらうためにも、

組合長 その結果が兼業農家が増えた原因。ここは比較的給料取れるのが簡単です。食べるだけ自分で作り、現金収入は外から。これがある意味であつていてるんです。

農協は年間所得八百万円の農家を作る計画を立てている。何で八百万か、サラリーマンの一生の所得は一億五千万円になるそうです。三十年働くと年間八百万円になるわけです。

司会 養豚経営の場合、団地化はどうなんでしょう。

専務 一ヵ所に集めると、多くの公害をもたらしますのでやはり分散していくほうがよいのではないかと。



八郷町農協産の「やさと納豆」はとても好評で、各方面から引っぱりだこ。地元の大豆を原料に加工した自然食品としてさらに販売ルートの拡大を計画。

ただ政府が言つてはいるようなな

五町歩の農業を山間部ではやっていけない。ここに合うよう農業

をしていかないと。もう一つは土地集積といふ構造的な問題

があつて、法がからんでいるからそこへんをどうするかとか。

岩瀬 園部はネットを使用するところが七割くらい出てきました。

富田 夜になるとコウコウと電気がついて、最初は不思議だと思いましたけど馴れちゃえば季節の風物詩だなど感じます。

組合長 とにかく八郷は農業と

の方に向けて、工場みたいにしてやる可能性がありますよね。

富田 商社などが、資本を農家その前に空いている土地を全部買

して残れば、素晴らしい農業地帯になります。だから本腰を入れてこちら邊で歯止めをかけないと。

農業が多様化していくのは時代

んな奉仕をしながら環境を守つてきただけなんです。

助役 今集落の連帯感は非常に希薄になつてきました。たとえば昔は道普請、草刈り、こき払い、川さらい、それがいまは形式的になつてしまつた。

専務 データで面白い結果があるんですよ。農業を将来も続けますか。続けません。じゃその農地はどうしますか。売りも貸しもしません。

助役 貸しもしないと言つことは耕作権の問題ですか。

専務 昔のことがあるんです。貸してもいいと言つたのはたつた一人でした。三十代です。四十代は売りませんとはつきり。

ただ政府が言つてはいるようなな五町歩の農業を山間部ではやっていけない。ここに合うよう農業をしていかないと。もう一つは土地集積といふ構造的な問題があつて、法がからんでいるからそこへんをどうするかとか。やはり第三セクターみたいなものを作らないと、対応できなくなることは事実ですね。

松崎 実際集めることはできる

て、農協が大規模に株式会社みたいにやつて、土日の休みに何人か加盟して皆が出てやつたり。

松崎 実際集めることはできる

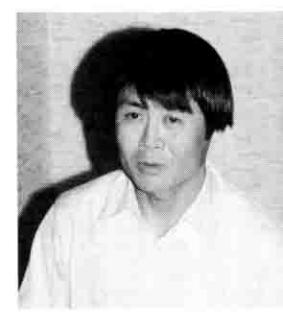
んですけど。農道、用排水の管理、

これは今まで地区の人たちが集まつてやつていたんです。もしそれを一つか二つの法人あるいは、会社が請け負つた時に、じや、そういうものを誰が負担するか。

組合長 十町歩の田をつくるとなると溝ざらい、草刈りもやらなければならない。莫大な労力がいる。集落は皆の力を合わせていろ

セント。あと十年たまるとやはり、六十歳以上の就農者は約五〇・一セント。五十年代は三三・四・一セント。六十歳以上の就農者は約五〇・一セント。あと十年たまるとやはり、六十歳以上の就農者は約五〇・一セントと同じ数字が出ている。

だが数字そのものは激減する。つまり、十年後ほんとうの曲がり角になる。農業を本当に立て直さな



松崎 英男さん

ければならないという議論が出てくると思う。

ただ農業がなくなつたという国はないはずですから、それは必ず生き返ると私は思います。

助役

八郷の農業振興の中で米の位置はどうなるのでしょうか。

それは重視しています。食管制度がなくなることは反対です。米の輸入自由化も反対です。しかし農協は反対だけやってきていいのかと言ふことになればそうではないんです。次に出てくるものを想定して低温倉庫をつくつたんです。

米作には政府売渡し事業だけではなく、採種が百町歩あるわけです。それは種もみとして県下に供給しています。

助役 施設園芸とか集約農業



岩瀬 直孝さん



鈴木 助役

組合長 米は日本の文化の根源。日常生活から離することはできませ

ん。米によって日本民族は栄えてきたわけですから。

司会 最後に今後の見通しみた

いなものを一言ずつお願いします。

業務部長 八郷の地域性を考えた場合、十町歩とか十五町歩の農業は不可能に近いと思います。新たに十五町歩なりを耕作できる農家となると、当然二千万円なり三千万円なりの資本投下をしないと成り立たない。その中で兼業農家に有機農業なり手間ヒマかかる農業を任せ、機械化できるものは大型農家に任せるというようになります。これが将来の八郷町の農業のあり方としていいんじゃないかと思いま

す。たしかに都市の勤労者に比べれば収入は少ないと思うんですが、都会にない良さという価値観の見直しも必要ではないのでしょうか。

専務 農家が生産する二〇パーセントが米ですから、これは決して少ない数字ではないと言つことです。

中で具体化していくよです。そうねば国としては大規模化という施策を出してくるかと思います。

富田 P.R.に力をいれていただきたいと思います。国民宿舎の宿泊客に、今八郷ではこういうものが旬ですと、注文を取つたり、販売もできるんじやないかと思いま

す。八郷のよさとか新鮮なものを売つていただきたい。フラワーパークで、たまに出張販売やつてみたいんですけど。

鈴木 これはちょっと難しいと思つんですが、兼業農家も専業農家も含めて、町全体が共存できる農業を目指してもらいたいと思うんです。

松崎 町が農業振興に力をいれたり農協が小中規模農家を守つていくというのは生産者にとって心強い。新政策の中でも國のほうで

じやないかと思います。

岩瀬 町のやる事、農協のやる事、ぼくたちがやらなきやならぬ事を、きちっとやっていかなければ。後継者問題で嫁不足の問題がありますが、これは後継者本人が信念を持った農業をしていれば、嫁さんは来るんですよ。農家に嫁ぎたいという人結構いるんです。

助役 農業をやっている人は、社長でもあるし、労働者でもあると思います。社長は赤字を出せばクビです。労働者はお金が入らないければ食べていけません。それに農協に、経営的な指導などやつていただき、町はその行政面を

は直接金は出さないといいます。そういう面では、行政とか農協にいただいて、援助をしてもらいたいと思います。

川俣 農政課長



川俣 農政課長

組合長 当面は産直を定着させたいと思います。町おこしのためにも、行政にも一つ理解をいただいて、援助をしてもらいたいと思います。

司会 今日はお忙しい中どうもありがとうございました。

あるいは畜産なんかに重点がいくのかと思ったのですが。

専務 農家が生産する二〇パーセントが米ですから、これは決して少ない数字ではないと言つことです。

農政課長 国では農業新政策を打ち出しましたが、具体的な策

については平成五年度から予算の基

にあります。七十キロ圏内の八郷は、本腰入れてやっていかなくてはなりません。

6月定例議会

一般会計 1億9,369万8千円を増額

平成4年第2回町議会定例会が、6月16日から22日までの7日間にわたり開かれました。議案2件と諮問1件が提案され、いずれも原案通り可決されました。議案は平成4年度災害復旧工事請負契約の締成



結についてが上程されました。主な内容は次のとおりです。

たばこ乾燥施設に補助

一般会計の予算は、歳入歳出そ

れぞれ1億9,369万8千円を補正増して、予算総額76億8,400万9千円となりました。

歳入については、前年度繰越金が7,870万2千円、国民宿舎「つくばね」施設整備等繰入金が7,430万2千円、飯塚片岡線道路整備事業などの寄付金が2,122万円、それぞれ補正増となりました。

ほかに、5月23日の落雷により柿岡小学校の電気系統修理代など

歳出については、国民宿舎「つくばね」の浄化槽改修工事に伴う国民宿舎費が9,096万4千円、フ

ラワー・パーク施設整

備基金等積立金が3,

459万3千円、今年度から建設

省と自治省予算の組み合わせによ

つて整備を進めてる飯塚山崎線

の事業費増などが含まれている道

路橋梁費は3,247万円、それぞ

れ補正増となりました。

さらに、山村林業構造改善事業

の一環として行っている林道菖蒲

沢線に係る林業費が1,272万

4千円、たばこ乾燥施設設置補助

金などの含まれている園芸施設費

が1,038万6千円の補正増と

なりました。

ほかに、5月23日の落雷により

柿岡小学校の電気系統修理代など



(67)と大字小幡の根本興元さん(63)が同委員会を務めています。

人権擁護委員の職務は、(1)自由

つき意見を求めるについてです。8月14日任期満了となる人権擁護委員には、大字柿岡の吉田廣司さん(63)が推せんされました。

ほかに、大字上林の吉川浩さん

が35本、抑止杭35本

は、人権擁護委員の推せんにつき意見を求めるについてです。

8月14日任期満了となる人権擁護委員には、大字柿岡の吉田廣

司さん(63)が推せんされました。

ほかに、大字上林の吉川浩さん

(67)と大字小幡の根本興元さん(63)が

同委員会を務めています。

人権擁護委員の職務は、(1)自由

つき意見を求めるについてです。

8月14日任期満了となる人権擁護委員には、大字柿岡の吉田廣

司さん(63)が推せんされました。

ほかに、大字上林の吉川浩さん

(67)と大字小幡の根本興元さん(63)が

同委員会を務めています。

人権擁護委員の職務は、(1)自由

つき意見を求

モニター初会議

よりよい町づくりめざして



こととして五期目を数える町政モニターのはじめての会議が七月三日、中央公民館で開かれました。会議に先立つて、町長からモニターの方に委嘱状が手渡されました。その後、町長から町を取り巻く状況や今後の課題、政策などの説明がありました。さらに飯村総務課長から平成四年度の予算と事業、真家企画開発課長補佐から各種計画の概要が紹介されました。町政モニター制度は、みなさんとのそれぞれの生活の中から、町政について、回答をいたします。

モニターの活動内容は、年四回の会議、施設見学、モニター通信、アンケート調査などです。

この制度は五年目を迎えた訳ですが、今まで数多くの方が参加し、貴重なご提案やご意見を述べられ、町政への参加と対話を実践してきました。モニターのみなさんには、これから一年間、こうした會議を重ねて「住民本位」の町づくりのリーダー的な役割を

として五期目を数える町政モニターのはじめての会議が七月三日、中央公民館で開かれました。会議に先立つて、町長からモニターの方に委嘱状が手渡されました。その後、町長から町を取り巻く状況や今後の課題、政策などの説明がありました。さらに飯村総務課長から平成四年度の予算と事業、真家企画開発課長補佐から各

種計画の概要が紹介されました。町政モニター制度は、みなさんとの生活の中から、町政について、回答をいたします。

モニター会議でのご提案、アンケートの調査結果は、次のようにまとめて町政に生かします。

(1) モニター通信やモニター会議での意見などについては、町づくりの企画や町政執行の資料にするほか、関係課に送つて必要なものについては、回答をいたします。

(2) アンケートの調査結果は、町づくりの企画や町政執行の資料

に対するご意見、ご提案などを

いたたきます。

町政モニター紹介

飯村 玲子（50歳・農業）山崎 比氣 雅之（28歳・製造業）柿岡 塚田千鶴子（39歳・主婦）柿岡

佐々木 保（37歳・製造業）柿岡 菊地 清（35歳・商業）柿岡

田上貴代子（47歳・主婦）柿岡 塩谷 利郎（40歳・農業）須釜

小林 照子（44歳・主婦）上曾

高野美知子（44歳・主婦）細谷

三輪 豊（32歳・農業）鯨岡

飯田 敏子（55歳・農業）鯨岡

長谷川 清（42歳・商業）小見

宇田よし子（36歳・主婦）大塚

大岡 定男（57歳・農業）中戸

比企美恵子（40歳・主婦）宇治会

桜井 仁博（54歳・商業）小塙

小河原幸一（32歳・会社員）宇治会

本多 菊子（47歳・農業）真家

倉持 昭夫（39歳・会社員）下林

加藤 久枝（49歳・主婦）下林

鈴木 直子（35歳・主婦）下林

原田 敏江（45歳・主婦）半田

飯島 勝（49歳・会社員）小野越

太岐口泰彦（35歳・商業）川又

（50歳）

対話
参加

あなたの声 を町政へ

シリーズ④

週休二日制を
検討中

〔おこたえ〕

役場を日曜日に開庁して住民サービスをということですが、現行の制度ではむずかしい状況にあります。ご承知のように国ではすでにことしの五月一日から完全週休二日制に入っています。

県においても六月の県議会で週休二日制の議案が可決され、七月十二日の週から完全週休二日制に入ることになります。

各市町村においても、これらに準じて早急に週休二日制を導入するよう指導を受けており、町でも種々検討を加えているところでございます。

なお、諸証明の発行については郵便による請求でも行っておりますので、ご活用いただきたいと存じます。

今後とも住民サービスの向上にむけて検討を加えていきますので、ご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。

どんな小さなことで結構でございます。
それで、町政に対するご意見、ご提案を役場秘書広聴課（☎四三四二二二二）まで、どしどしお寄せください。

前から思っていることを聞いてください。簡単にいえば、月に一回位は日曜日も出勤して役場の業務を行っていただきたいのです。その代休は仕事の都合で平日でもよいと思います。

それは他のサラリーマンの方が日曜を利用して用事を済ませることができます。時代に逆行するようなことはですが、町民のための職場であることを再考してほしいと思います。

（9）

町立吉生小学校

校庭のシャクナゲの花が、時流れとともに順序よく咲き誇る吉生小学校（島田秀穂校長）では、全校百二十一名の児童が元気よく「おはようございます」のあいさつで一日が始まります。

同校は、町の中心より南西の位置にあり、学区内を大規模農園地農道がほぼ直線になつて南北に走り、土手の松林には、ハツタケが出ることで以前に有名でした。

同校では、一年生と二年生を対象にして、「本の読み聞かせ」を実施しています。



子どもたちによい本を読んで聞かせてあげたいという思いから、お母さん方で当番を決め、自主的な活動として取り組んでいます。回を重ねるうち、子どもたちも人の話を聞く態度や習慣が少しずつ身についてきています。

昨年は、家庭教育学級の一事業として親子で「良い話を聞く会」を開催し、本の読み方、話のし方

について、講師の先生から指導を受け、大変有意義な学習会であつたと好評でした。

昭和五十三年、新校舎に移転しましたが、長い間PTA（中島仁一會長）や地域の人々の協力により、行き届いた労力奉仕が行われ、校庭などもよく整備されています。このことは生活体験学習の一環として、親子が共に汗を流しながら作業するふれあい菜園づくりを実施しています。学年ごとに畑を区割し、草とり、土おこし、種子ま

親子で本読みや 菜園づくりに取り組む



町長の日記帳から

六月の主な動向はつぎのとおりです。

一日(月)八郷・岩間町間道路整備促進協議会

二日(火)補正予算査定

三日(水)水梨鉄柄産地認定書伝達式

四日(木)～五日(金)農事実行組合協議会総会及び研修（宮城県）

六日(土)陣場地区懇談会

七日(日)新治郡体育大会

八日(月)芦穂小学校起工式、小幡地区百寿会

十日(水)県町村長会、郡町村長会

十一日(木)社会福祉協議会総会

十五日(月)石岡地区交通安全協会

十六日(火)～二十二日(月)平成三年第二回町議会定例会

十七日(水)郡母子寡婦福祉会総会

二十三日(火)水梨鉄柄産地認定祝賀式

二十四日(水)みかけ石会総会

二十五日(木)「どう生きるのか、八郷の農業」座談会

二十六日(金)保護司会総会

二十七日(土)佐久良東雄顕彰会発会式

三十日(火)農業振興地域整備促進協議会

多目的スペースを配置

芦穂小学校の起工式が八日に

行われました。鉄筋コンクリート造りの地上三階建てで床面積

が二千六百二m²。屋根は瓦ぶきとなります。

工事費は六億五千五百六十万円、竣工は来年春の予定です。

普通教室にはすべてワークス

ペースといわれる多目的スペー

スが設置され、教室から廊下へ

の広がりが確保されます。

そこは、少人数で協力して学

習を進めたり、絵画や工作の作

品展を開いたり、またあるとき

は、学習発表したりできる多样

な空間を持つております。

また、コンピューター室も設

置され、あらゆる角度から学習

できる最先端の教育施設が竣工

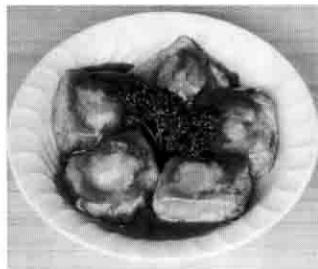
することを、私も待ち望んでい

ます。と同時に、同校校舎が二

十一世紀を担う子どもたちを育てるのにふさわしい建物として、



豆腐の
肉詰め蒸し



食生活改善推進員 鈴木りん・下林

材料（4人分）豆腐2丁 豚ひき肉100g、ねぎ $\frac{1}{2}$ 本、しょうが1かけ、塩小さじ $\frac{1}{2}$ 、酒大さじ1、あんの材料（スープ1カップ、塩小さじ $\frac{1}{2}$ 、しょうゆ・砂糖各大さじ1、酢大さじ $\frac{1}{2}$ 、水溶き片栗粉各大さじ $1\frac{1}{2}$ ）、揚げ油

作り方

- ①豆腐を布きんに包み、まな板を斜めにおいて乗せ、もう1枚まな板を上に乗せます。
- ②十分水気を切り、1丁を4等分にします。
- ③揚げ油を高温に熱し、豆腐の水分をふきとり、強火できつね色に揚げます。
- ④ひき肉に、ねぎ、しょうがのみじん切りと、塩、片栗粉を加えよく混ぜます。
- ⑤スプーンの柄の方で揚げた豆腐の中央を小さくくり抜き、肉の混ぜたものを、片栗粉をつけて詰めます。
- ⑥湯気の立った蒸し器に並べ、強火で約10分蒸し、盛りつけます。
- ⑦あんはスープと調味料を煮立て、水溶き片栗粉でとろみをつけ、⑥の上にかけます。

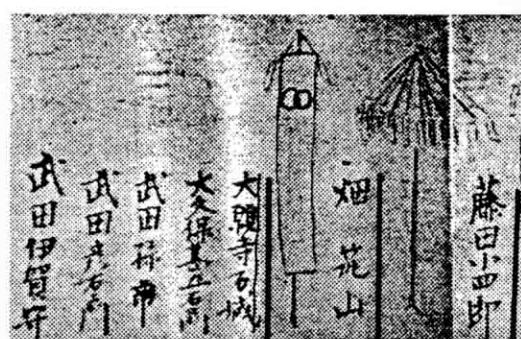
藤田佳奈恵ちゃん（小幡）



父 孝之さん 母 由美さん
平成元年3月3日生まれ（長女）

♥家族からの一言

今年の四月から保育所へ通い始め、ずいぶんしっかりしてきました。弟とも良く遊んでくれ、お姉さんぶりを發揮しています。佳奈恵ちゃん、みんなに好かれれる心やさしい子に育つてね。



町にゆかりの人々 （1）

大願寺赤城

天狗党が筑波山に挙兵（一八六四年）、その一年後、敦賀の鮭倉で悲惨な最後を迎えたことは、大方の皆さんはご存じである。しかし、天狗党一年の長征中、最も激しかった那珂湊の戦いの攻防で「其の武者振りは、まるで弁慶の

再来のようである」と、

いわれた大願寺赤城と

いう豪僧がいて、當時の世間ではその豪勇ぶりが大変評判で

あったという。

その豪僧が実はわが町小屋、大岩寺の住職であったということは、あまり知られてはいない。私もこれを知ったのは、そう遠いことではない。私が赤城を知ったきっかけは、上村

弁慶の再来のような豪僧

がいつも私の頭にあつたからである。

赤城は、大願寺石城、大願寺別当岩城、葦穂山大願寺の豪僧岩城秀道と、幾通りもの呼び方をされている。

上の資料は、天狗党西上中、上州太田（柄木太田）に到着したときの行軍陣容である。総勢八百三十三名。

行列の中央に田丸稻之衛門、藤田小四郎、畠築山、大願寺石城、武田伊賀守次男魁介、長男彦右衛門、そして総大将武田伊賀守、大軍師山国兵部、石城の名が行列図の中央にある。党中央の諸将の中に位置しているというこ

ようの名は、大岩寺さん周辺の人々によつて彼の筆になるという馬頭尊の石碑等とともに言い伝えられてきたこと

とは、天狗党の中で相当重きをなしていたとみるべきであろう。

天狗党が最後の軍議

を開き、降伏と決定したとき、赤城は一

人なお反対を唱え、「愚僧は一人なりとも敵と戦つて京へ向かう」と憤慨し去つたという。赤城は、従者弟子三人とともに京都に向かう途中、近江の梁ヶ瀬という所で彦根藩兵にとりかこまれ、最後まで戦つて殺されたという。

町文化財保護審議委員 田上静子

ひらかちの広場

このページは、皆さんができるページです。
あなたのご意見や作品をお待ちしています。



山崎 青木明子



大増 木村ひろゆき(7)



山崎 青木麻依(8)



川又 木村和子

習字コ一ナ一

評 玄潮会 森 浩亭

大増 宮城貴大(五歳)

恋瀬小二年 岩田千穂

か
たかひこう

二年 いわ田 ちほ

紙一杯に大きく、すなおに書け
てます。

しつかりした線で気持ちこも
った作品です。

紙一杯に大きく、すなおに書け
てます。

知人の獣医師の話では、もう何十年
以上もこの病気は発生していないと言
うことです。

実際に相当数が無注射で飼われてい
ますが、やはり元の場所に戻してあげ
るべきでしようね。親鳥さんもう少し
待つてね。

八郷の自然は、まだまだ豊かなよう
ですね。

大増 森田下枝(43)

♣ この広報が出ることはずいぶん
と大きくなっていることでしょうね。
出産したばかりの娘のところに、
泊まりがけで手伝いに来て、広
報やさとを読みました。

美野里町 須藤芳子(55)

先日、狂犬病の予防注射を受け
きました。

宇治会 酒井昭
♣ ご指摘のように、狂犬病は昭和二
十四年以来、発生していません。し
かし、完全に狂犬病がなくなつたわけ
ではなく、この予防注射は法律に定め
られ、義務づけられているものです。
また、このところのペットブームで、
東南アジア方面から相当数の動物が輸入

されました。シトシトと雨に濡
れる紫陽花の花、私の好きな花のひと
つです。

保健室

紫 陽花が雨に濡れて美しい季節と
なりました。シトシトと雨に濡
れる紫陽花の花、私の好きな花のひと
つです。

でも、でも、でも、洗濯物が乾かな
い。部屋の中いっぱいに広がる洗濯
物の花、花花。何とかならないかな。
洗濯オバサンより

フラワーパークの
入場券がペアで当たるよ

広報クイズ 52

3つの答えの中から正解を選び
ハガキに書いて送ってください。

①このほど行われた座談会のテーマは何?

(A)農業 (B)工業 (C)商業

②町政モニターは何人?

(A)25人 (B)30人 (C)35人

③町のナシの栽培面積は?

(A)162ha (B)216ha (C)126ha

〔応募の方法〕

☆ハガキに広報クイズ52と書き、
答えの記号(例1-A)、住所、氏名、
年齢、世帯主と「私もひとこと」
へのご意見やご感想などを書いて
送ってください。イラストやマン
ガも大歓迎。

☆全問正解者の中から10名にフラ
ワーパークの入場券をプレゼント
します。

☆締切日 平成4年8月15日

☆応募先 〒315-01 八郷町柿岡
2009-3 八郷町役場秘書広聴課

☆当選者の発表 本紙9月号

〔広報クイズ50の当選者の発表〕

正解は1-C、2-B、3-Aでした。
応募37通、正解34通の中から次の
10名が当選しました。

森田下枝(大増) 森田美智子(真家)
菱沼隆史(月岡) 山田香緒里
(東成井) 加藤義寿(仏生寺) 小
林とみ(須釜) 萩原志づ(月岡)
菊地実(上曾) 佐藤すみ子(柿岡)
塩谷節子(須釜)

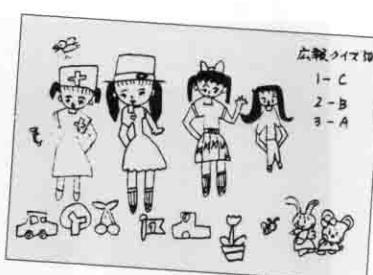
=敬称略=



川又 小松崎 彩 (5)



片野 沢畠邦恵 (6)



小見 あらきみか (7)

広報クイズ50
1-C
2-B
3-A

●やさと文芸

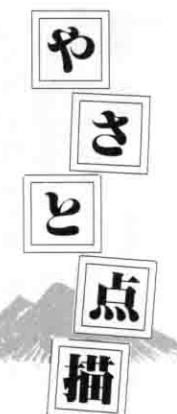
俳	句	綿	引	鼓	峰	選
残り洞田	を女房と植えて明日はやすらぐ早苗饗	東成井	大和田			
花菖蒲	一と叢残し畦を刈る	東山崎	小島	みき	利	
桐の花	こぼれてをりし墓碑の前	上曾	足立	喜一郎		
柿	岡	大木	嶺	月	選	
		東成井	小池	亀太郎		
		東成井	小島			
		上曾	せん			
		上曾	醉人			

骨折も癒えて老父の健やかに九十の坂を達者で登る
東山崎 鈴木君江
朝々に色を替えつつ艶める雨に濡れたる紫陽花の花
友がくれし年の古りたる糠漬の味かみしめて一人で生活す
月岡 月岡一露

短歌 吉田次郎選



中央公民館の庭に季節はずれの
コスモスが、来館者もビックリ、
秋はまだまだ先なのに…。



まちの話題できこと

身近な出来事や地元の話題をおよせください

(連絡先・広報課 内線一一六)



まだまだ現役クロッケー大会

春期町民クロッケー大会が、六月十六

日、総合運動公園で開催、五ブロックに
わかれて熱戦が繰り広げられました。

各ブロックの成績は次のとおりです。

Aブロック ▽優勝戸内竜ノ口A ▽
準優勝小幡細内B ▽三位瓦会第二高橋
Bブロック ▽優勝小幡一 ▽準優勝片

岡一 ▽三位瓦会第一吉田

野A ▽三位園部第四仲村

Cブロック ▽優勝園部第三B ▽準優
勝園部第四奥村 ▽三位芦穂第三の2

Dブロック ▽優勝根小屋C ▽準優勝

瓦谷弓張 ▽三位浦須A ▽
Eブロック ▽優勝月岡一 ▽準優勝月

暴走はしないさせない許さない

茨城県暴走族対策会議主唱の「平成四
年度暴走族追放強調運動」が六月と七月
の二ヵ月間実施されている中、石岡地区

交通安全対策推進協議会と石岡警察署主
催の「暴走族追放総決起大会」が当町の

中央公民館で開催されました。

大会には約三百名が参加、中央高校の
生徒による「私の提言」と題した作文発表
や暴走族の概況説明がありました。また

「地域ぐるみで暴走族を追放する気運を
盛り上げ、暴走族を許さない社会環境を
つくり、青少年の健全な育成を図ること」

もに市民の平穏な生活を確立し、安全かつ
快適な交通社会を実現するため、暴走
族を一掃することを決議する」との決議
文が読み上げられ、決議大会を終了しま
した。

また大会終了後には、アトラクション
として県警察音楽隊の演奏や、テレビ・
ラジオでおなじみの牧伸一の漫談などが
行われました。

なお、八郷町は石岡市、千代田町とと
もに「暴走族追放重点地域」に指定され
ています。

ありがとうございます

- 町社会福祉協議会へ現金三万五千円 小屋 鈴木 孝夫
- 同十万円 下青柳 塚田ひさ子
- 同一万七千五百二十円

ときわ路こだま会
代表 中山富美子・宮部幸夫



水野ますみ(18歳・小倉)さん

趣味は音楽鑑賞。カラオケも好きです。理想の男性は、面白くてよくしゃべる人、あきない人です。

ときめき
ティータイム

初の弓道教室を開催

このほど、総合運動公園に弓道場がオープンされました。これに伴い町では初めての弓道教室を開催しています。

六月二十一日から八月三十日までの毎週日曜日、十回行う予定です。教室には町弓道部や八郷高校弓道部を含め一般の方、約五十名が参加。初心者から経験者まで、それぞれのレベルにあわせた指導



小林医師の健康講演会

六月二十九日、中央公民館で「長寿社会を迎えて、健康な老後を送るために」と題し、須釜の小林慎太郎医師の講演会が行われました。

この講演会は、疾病的予防と健康の増進を図り、長寿社会の中で活力ある豊かな人生を送るために、町の健康教育の一

環として行われたものです。当日は、約六十名が受講。約二時間にわたる「寝起きリゼロへの10か条」などの講話に、皆さん熱心に耳を傾けていました。

また、講演終了後には、受講者に血圧測定のサービスが行われ、皆さんに喜ばれていました。

座談会にもあつたように、安全でおいしいものを食べるには、やはり国内の自給率を高め、生産者と消費者の信頼関係を築くことが大切です。それにはしっかりと見通しを立て、失地回復にむけた関係機関の取り組みが望まれます。見通しといえば、先月号で弱いジャイアンツを引用したところ、急に勢いづきあれよあれよという間に現在首位。筆者の見通しの甘さを改めて痛感しました。ファンに申し訳ない。しかし、シーズン終了時点はどうかな?とも思った。農業政策の見通しは絶対誤らないでください。



が行われています。

受講生の一人、四十代男性は「まつたく初めて、広報で教室の生徒募集を知り、精神統一を図るには最適」

つても続けられると思い応募した。型をつくるのが難しい。これからも二十年後、三十年後とずっと続けていきたい」と話していました。

わが国の歴史を、ふり返ると、農業の果たしてきた役割は、非常に大きいものがあります。

食糧生産面ばかりでなく、自然環境の保全、洪水や山崩れの防止など、生活環境面でも大きな貢献をしてきました。

しかし、近年、農業の生産力が低下しており、農業、農村の活性化が重要な問題となっています。加えて、農業労働力の減少や高齢化が進行する中、中山間地域の耕作放棄地がふえております。



富士山の「日の出祭り」

に登ります。

町のほぼ中央に位置する富士山の山頂にある、浅間神社のお祭り「日の出祭り」が、今年も七月一日に行われました。

当時は、朝早く、日の昇る前に地元石沢と須釜の若い衆が太鼓を打ちながら山



に登ります。

昔から、田植えが終り、農仕上げのお祭りとして行われてきたというこのお祭り、今年も五十人ほどが、浅間神社へお参りをしました。

ナシ銘柄産地指定

願い実つてさあスタート

「八郷のナシ」がこのほど、県銘柄産地の指定を受けました。産地指定には品質・規格選別・鮮度・生産出荷体制など厳しい条件があります。関係機関ご指導のもと生産者の方々の努力により、それらをみごとクリアしました。今後、地域活性化の原動力になるものと大きな期待がかかります。



ナシ銘柄産地指定祝賀式が6月23日、中央公民館で開かれました。出席者は生産者、農協、町など関係者含めて300名。長い間の願望がかなえられたとあって、感激ひとしおでした。

八郷におけるナシ栽培は昭和二十五年以降、栽培者、栽培面積とも急増してきました。平成三年度の栽培戸数は三百二十五戸で、栽培面積が百六十二ヘクタール。売上額は七億円を超えております。これは耕地から生産される作物では、米に次いで第二位の販売額を上げており、町も農協も基幹作目として最も力を入れている作物です。これまで生産者の方々のたゆまぬ努力によって、品種の改良や栽培技術、肥料、農薬などの使用方法が向上し、おいしくて、きれいで、たくさんのナシが収穫できるようになりました。

銘柄産地の指定を受ける条件としては、消費者のニーズにあった品質のよいものを揃え、量的にもまとまって、継続的に供給できること、という厳しい条件があります。しかし、当町は農協の合併、選果場の整備、生産団体の部会統一、九〇%以上の非常に高い共販率などを経ては次のとおりです。

▽昭和六十一年 县青果物銘柄推進産地の指定を受ける。

▽昭和六十二年 小幡、中央、園部の三選果場役員による販売対策会議を開催する。

▽昭和六十三年 選果場連絡協議会の発足。十一月、農協の合併により生産部会が一本化。

▽平成元年 土壤診断による肥培管理の適正化を推進。

▽平成二年 統一ダンボール「八郷町農協梨選果場」を使用

▽平成三年 農協梨部会を発足。格付け検査員の選果場巡回。

▽平成四年 生産、出荷、市場対策の基本方針を確立。県銘柄

を通じて、品質のよい、愛されるなしを、京浜地帯を中心全国へ送り出してきました。このたびの県南地区のナシ产地で初めてという銘柄産地指定により、まさに名実共に、ブランド品の仲間入りができたということになります。



出荷に忙しいナシ共同選果場